

熊本県上益城郡嘉島町周辺地域の 待遇表現について

岩永 健治郎

1. 序論

九州は方言敬語が発達しており、地域によって様々な敬語形式がおこなわれている。

本稿では熊本県の中央部に近い上益城郡とその周辺地域に焦点をあて、この地域で日常的に用いられている敬語形式の様態を探っていく。

当該地域の待遇表現については藤原（1978, 1979）による分布調査などが存在するが、それらの調査は敬語形式の分布を調べるにとどまり、その変容や世代差についての報告は乏しい。また、本稿の調査地域である上益城郡を特に取り上げたものも、管見の限り見受けられない。本稿では他地域の方言敬語との比較も行い、当該地域の敬語形式の現状と変容の一端を明らかにしていく。

本稿は著者の卒業論文（平成 29 年度）に加筆・修正したものである。

2. 先行研究

本稿に関連する先行研究として、熊本市域及びその周辺域に存在する尊敬語表現と、肥筑方言の中核的位置にある天草方言の尊敬語表現の研究を取り上げる。

2.1. 神部（1992）

2.1.1. 熊本市域及びその周辺域の尊敬語表現

○ナサル系

ナサル及びその派生形は九州のみならず、日本各地に存在する。地域によってそれぞれが持つ尊敬度の高さは異なるが、おおむね高い尊敬度を有している。もともと存在したナサルからナハル、ナル、ナスなどが派生している。ナハルは肥筑から豊後北部にわたって分布し、ナサルは筑後、筑前域など九州北部において見うけられる。

例 タカーシ。ケー。キナツタ ゴー。（たかし。来い。来られたぞ。《兄が弟

に。家庭教師が来たことを告げる。》)

○ス・ら+ス系

「ス・ら+ス」は肥筑のほぼ全域に分布している。熊本市域及びその周辺域などでは、話題の人物に関してのみおこなわれる三人称敬語である。天草では二人称三人称に関して何の制約もなく、広くおこなわれている。

藤原与一(1978, 290 ページ)では、「未然連用命令の諸形に、「シャル・サッシャル」の直音化が認められるとされる。ところで連用形の「シ」の言い方は、未然形の「サ」形にも増して、実生活上、よく用いられてきていよう。「シ」の類用につれて、人は、その「シ」から、自然に終止形「ス」を引き起こすことになったのだと思う。「サッシャッタ」の「サシた」からは、「サス」を引き起こしたと思う。こうなって、「シャル・サッシャル」に関する、「スサス」系の言い方が成立したと、私は考える。」と述べられており、「シャル・サッシャル」から現在の「ス・ら+ス系」が派生したことがうかがえる。

「シャル・サッシャル」はすでに衰退が著しく、派生形式「ス・ら+ス系」も、天草では全活用形が整ったが、それも肥筑本土部などではすでに衰退しているという。

例 オトツツァン ナ オラス ナ。(お父さんは居られるかね。《中年男性が近所の小学生男に》)

○ル・ら+ル

九州西部に広く分布する。天草を含むどの地域でも衰退しており、その敬意度は概して低いものになっている。

例 アンワンモ イカゲナ。(あの人も行くそうだよ。《成年男子同士》)

○ヤル

九州南部、薩隅域に顕著な尊敬法である。その古態法が、肥前及び筑前域にも散在している。肥筑域のそれは、かなり衰微している。

例 ハヨー イキー ヤーイ。(早く行っておいで《老女が孫に》)

2.1.2. 天草方言の尊敬語表現

天草における敬語法の形式は、本土部と大きく異なる。天草方言に存在する、主な尊敬語表現としてとりたてられるのは、「〜ル・ラル」、「〜ス・サス」、「ナ

ス」の三形式である。

「～ル・ラル」はごく身近な、いわば仲間内での親愛感を出す形式である。場面・用法によって、身近な温かさの表出にもなれば、蔑視・揶揄の色調を帯びることもある。第三者待遇にのみ用いられる。「～ス・ラス」は「～ル・ラル」よりは敬意が高く、代者＝聞き手に関しても、ごく普通に行われる。天草のラスは、日常の、やや改まった敬意表現のためのほどよい敬語形式として、全年齢層にわたり、よく活用されている。「ナス」は最も高い敬意を表して行われる敬語形式であり、全活用形が整っている。中年以上の男女に、高い敬意を表しておこなわれている。対者＝聞き手の行動に関する尊敬表現、いわば二人称尊敬の性格が強い。

2.2. 渡辺 (2017)

熊本県中北部に位置する、大津周辺地域の待遇表現についての報告がなされている。80代～20代までのインフォーマントを対象に面談形式で調査が行われた。記述をまとめると、以下のようになる。

- I 大津周辺地域の高齢者においては、待遇表現として「ナル」、「ナハル」、「～ス・ラス」、終止形+デスが用いられる。
- II 「ナル」は活用形に関わらずほぼすべての動詞に接続し、尊敬の意味になる。話し相手待遇、第三者待遇両方で用いることが可能であり、多用される。
- III 「～ス・ラス」は第三者待遇のみに用いられ、高年層においては目下のものに対する待遇表現として使用が避けられる。
- IV 中年層以降では丁寧表現である終止形+デスが用いられなくなり、「～ス・ラス」の使用範囲が拡大した。中年層以降の話者が用いる「～ス・ラス」は、丁寧表現として、目上の人に対しても使用可能である。

渡辺 (2017) での調査地域は県中北部であり、方言分布も本稿における調査地域 (県中部) と重なる部分が多い。一方、県の文化・経済的中心地である熊本市に近い嘉島町では、大津町とは違った方言の様態を見ることができ的可能性がある。

2.3. 京都方言待遇表現ハル

岸江 (1998) では、京都方言「ハル」は話し相手待遇においては尊敬語とし

て機能するが、第三者待遇では幅広い動作主体を待遇できるとの報告がなされた(例「猫が歩いてハル。』)。また、泥棒、動物など共通語の尊敬語の対象にならないものに対する第三者待遇での「ハル」の使用が確認された。

また、辻(2001, 2002)ではくだけた場面において、「ハル」の適用範囲は広い範囲の人間や団体・機関、一般論の主文の主語にまで拡大しており、中心的な機能が尊敬語機能から談話の場に存在しない三人称の「人」として遇することを示す三人称指標機能に移行しているとの記述がなされている。また、三人称指標機能を中心に「感情評価暗示」「親愛」「間接化」「擬人化」の派生的機能、「協調」「発見・驚き標示」の周辺の機能をもつという。なお辻(2001, 2002)の調査は第三者待遇で「ハル」を多用する女性を対象にしている。

「ハル」は「ナサル」から派生しており、また話し相手待遇、第三者待遇両方で使用することが可能な点において熊本市域の「ナハル」に類似している。また、天草で用いられる「～ス・ラス」は、「ハル」と同様に話し相手待遇、第三者待遇両方で用いられる。

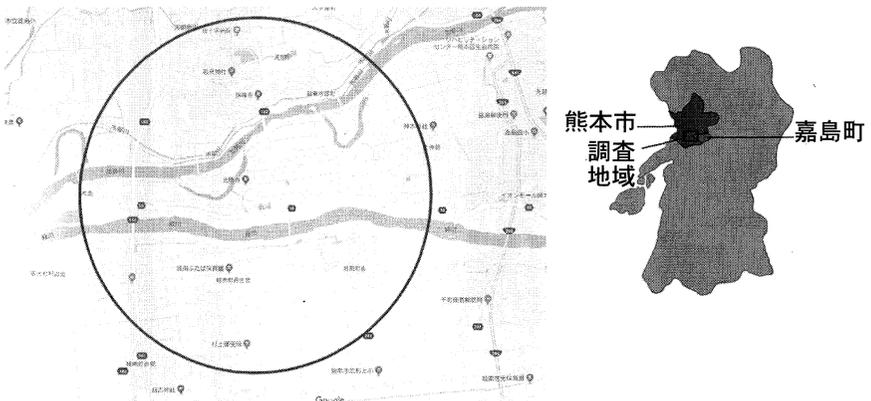
3. 調査概要

ここでは、本稿における調査の対象地域、調査期間、対象インフォーマントと調査内容について述べる。

(1) 調査対象地域

嘉島町とそれに隣接する地域(南区御幸・南区旧城南町・上益城郡嘉島町)で調査を行った。

地図 (<https://www.google.co.jp/maps/@32.739149,130.7229391,15z>)



円で囲まれた地域にて調査を行った。

本稿における調査対象地域である熊本県上益城郡嘉島町は、熊本県の中心都市熊本市の東部に隣接しており、ちょうど熊本県の中部付近に位置している。南北を一級河川である緑川と加瀬川に囲まれていて、それらの河川を境に、北は熊本市南区御幸、南は熊本市南区城南に面している。近年、豊富な地下水や県内中心部に近い立地の良さから工場や住宅地、大型ショッピングモールが建設され、経済的に発展するとともに人口が増加傾向にある。

歴史的には肥後藩に属し、明治38年10月には、大川村と上島村が合併して大島村となる。さらに昭和30年の町村合併促進法により、六嘉村と大島村が合併して嘉島村となった。昭和44年2月1日町制を施行し「嘉島町」として今日に至る。(嘉島町ホームページ、町の概要より引用)

(2) 調査期間 平成29年9月～12月

(3) 対象インフォーマント

嘉島町とそれに隣接する地域(熊本市南区御幸・熊本市南区旧城南町)で言語形成期を過ごした6人を対象とした。調査対象者は以下の通り。

- A 84歳女性 (0～3歳：阿蘇市赤水、4～5歳：八代市、5～20歳：熊本県熊本市南区城南(旧城南町)、20歳～：熊本県熊本市南区御幸(旧木部町))
- B 71歳女性 (0～19歳：熊本県熊本市南区城南、19～22歳：東京都足立区、22歳～：熊本県熊本市南区城南)
- C 62歳男性 (0～19歳：熊本県上益城郡嘉島町、19～23歳：大阪府和泉市、23歳～：熊本県上益城郡嘉島町)
- D 54歳女性 (0～24歳：熊本県熊本市南区御幸、24歳～：熊本県上益城郡嘉島町)
- E 24歳女性 (0歳～：熊本県上益城郡嘉島町)
- F 23歳女性 (0歳～：熊本県上益城郡嘉島町)

本稿においてはインフォーマントA～B(70歳以上)を高年層、C～D(40歳以上)を中年層、E～F(40歳以下)を若年層と分類し、分析する。

(4) 調査内容

まず、当該地域で使用される待遇表現の形式を確認する。藤原（1978, 1979）より当該地域で使用される可能性のある形式を抜粋し、使用できるかを調査した。旧城南町出身のインフォーマント A に対して面談形式で行い、待遇表現の使用の有無と、耳にしたことがあるかを面談形式で確認する。また、耳にしたことのある形式については例文を挙げてもらった。

続いて待遇表現の使われ方について調査を行う。具体的には当該地域で使用される形式について活用・統語調査をし、さらに動作主体ごとの使い分け調査を行った。使い分け調査は全てのインフォーマントに対して行い、世代ごとの、それぞれの形式の使用範囲を確認した。

4. 調査・分析

4.1. 使用される待遇表現形式の調査

4.1.1. 調査方法

調査にあたり、渡辺（2017）の方針を参考にした。当該地域で使用される見込みのある待遇表現の形式を、藤原（1978）とそれに付録されている図版より抜粋し、その使用状況を面接形式で調査した。面接では目上の人（学生時代の恩師）が動作主体であると仮定して、二人称、三人称それぞれの例文を待遇表現の形式に翻訳してもらった。

以下、当該地域で確認される可能性のある待遇表現をまとめたものが表 1 である。例として取り上げる形式の基準を次のように設ける。

- ①藤原（1978）の図版にて当該地域かその周辺に網掛けがなされている。
- ②当該地域には網掛けはないが、近隣（主に肥筑地域）に網掛けがなされている。または、当該地域を挟む形で飛び地的に網掛けがなされている。
- ③網掛けはないが、本文中で言及がなされている。

これらの形式の他にも、話者から別途回答が得られる可能性はあるため、記載のなかった形式が得られる可能性も十分に考えられる。

表1 当該地域で確認される可能性のある形式（藤原（1978, 1979）参照）

| | |
|-----|--------------------------------------|
| 尊敬形 | ゴザル、～レル・ラレル、シャル、サツシャル、～ナハル、ナル、ナッス、ナス |
| 謙讓形 | 「拝領」との言い方（「ハイヨー」） |
| 丁寧形 | ゴザス、ヤンス、デス |

表2についても、渡辺（2017）を参考にして、標準語の口語文法の活用に沿って作成している。「そのため、「寝る」のように九州方言におけるラ行五段化の傾向がある動詞や、「求める」のように方言として下二段活用が残存し運用されている動詞も上一段活用や下一段活用に含まれているが、本稿の調査結果には影響しないため、標準語に合わせて分類し、使用している。」（渡辺 2017, 4 ページ）

なお、本稿においては音素の表記をヘボン式ローマ字で行う。また、通常 IPA 記号の表記に用いられる [] を、[-nahar-] 形式のように待遇表現の形式を表すのに使用する。

表2 動詞表

| | 五段活用 | 上一段活用 | 下一段活用 | 変格活用 |
|---|------|-------|-------|------|
| ア | | 老いる | 見える | |
| | | 居る | 得る | |
| カ | 書く | 着る | 受ける | 来る |
| | 行く | | | |
| サ | 探す | | 見せる | する |
| | 話す | | やせる | |
| | 貸す | | | |
| タ | 勝つ | 落ちる | 捨てる | |
| | 立つ | 散る | | |
| ナ | 死ぬ | 煮る | 尋ねる | |
| | | | 寝る | |
| ハ | 減る | 干る | 経る | |
| マ | 読む | 見る | 求める | |
| | 飲む | | 決める | |
| ラ | ある | 下がる | 入れる | |
| | | かりる | | |
| ワ | 笑う | | | |
| | 思う | | | |
| | 買う | | | |
| ガ | 泳ぐ | 過ぎる | 告げる | |
| | 注ぐ | | 下げる | |
| | 急ぐ | | | |
| ザ | | | 混ぜる | |
| ダ | | 閉じる | 茹でる | |
| | | | 出る | |
| バ | 遊ぶ | 浴びる | 食べる | |
| | 学ぶ | 伸びる | | |

4.1.2. 調査結果

表 3 - 1 使用が確認された形式（五段活用）

| | 五段活用 | [-nahar-] | [-as-/-ras-] | 回答 | 他 |
|---|------|-----------|--------------|------------------------|------------|
| ア | | | | | |
| カ | 書く | ○ | | kakinaharu | |
| | 行く | ○ | | ikinaharu | oidenaharu |
| サ | 探す | ○ | | sagashinaharu | |
| | 話す | ○ | | hanashinaharu | |
| | 貸す | ○ | | kashinaharu | |
| タ | 勝つ | ○ | | kachinaharu | |
| | 立つ | ○ | | tachinaharu | |
| ナ | 死ぬ | △ | | shinnaharu | |
| ハ | 減る | △ | | hennaharu | |
| マ | 読む | ○ | | yominaharu | |
| | 飲む | ○ | | nominaharu | |
| ラ | ある | △ | | inaharu | |
| ワ | 笑う | ○ | | warainaharu | |
| | 思う | ○ | | omoinaharu | |
| | 買う | ○ | | kainaharu | |
| ガ | 泳ぐ | ○ | | oyoginaharu | |
| | 注ぐ | ○ | | sosoginaharu | |
| | 急ぐ | ○ | | isoginaharu | |
| ザ | | | | | |
| ダ | | | | | |
| バ | 遊ぶ | △ | △ | asobinaharu/asondorasu | |
| | 学ぶ | ○ | | manabinaharu | |

表 3 - 2 使用が確認された形式（上一段活用）

| | 上一段活用 | [-nahar-] | [-as/-ras-] | 回答 | 他 |
|---|-------|-----------|-------------|--------------|-------------|
| ア | 老いる | △ | | oinaharu | |
| | 居る | ○ | | inaharu | oidenaharu |
| カ | 着る | ○ | | kinaharu | |
| | | | | | |
| サ | | | | | |
| | | | | | |
| タ | 落ちる | ○ | | ochinaharu | |
| | 散る | △ | | chirinaharu | |
| ナ | 煮る | ○ | | ninaharu | |
| | | | | | |
| ハ | 干る | × | × | | |
| マ | 見る | ○ | | minaharu | |
| ラ | 下がる | ○ | | sagarinaharu | |
| | かりる | ○ | | karinaharu | |
| ワ | | | | | |
| ガ | 過ぎる | △ | | suginaharu | |
| ザ | 閉じる | △ | | tojinaharu | shimenaharu |
| ダ | | | | | |
| バ | 浴びる | ○ | | abinaharu | |
| | 伸びる | △ | | nobinaharu | |

表 3 - 3 使用が確認された形式（下一段活用）

| | 下一段活用 | [-nahar-] | [-as/-ras-] | 回答 | 他 |
|---|-------|-----------|-------------|--------------|--------------|
| ア | 見える | ○ | | mienaharu | |
| | 得る | × | × | | |
| カ | 受ける | ○ | | ukenaharu | |
| サ | 見せる | ○ | | misenaharu | |
| | やせる | ○ | | yasenaharu | |
| タ | 捨てる | ○ | | sutenaharu | |
| ナ | 尋ねる | ○ | | tazunenaharu | |
| | 寝る | ○ | | nenaharu | |
| ハ | 経る | | | | |
| マ | 求める | ○ | | motomenaharu | |
| | 決める | ○ | | kimenaharu | |
| ラ | 入れる | ○ | | irenaharu | |
| ワ | | | | | |
| ガ | 告げる | △ | | tsugenaharu | |
| | 下げる | ○ | | sagenaharu | |
| ザ | 混ぜる | ○ | | mazenaharu | |
| ダ | 茹でる | ○ | | yudenaharu | |
| バ | 出る | ○ | | denaharu | |
| | 食べる | ○ | | tabenaharu | oagarinaharu |

表 3 - 4 使用が確認された形式 (変格活用)

| | 変格活用 | [-nahar-] | [-as-/ras-] | 回答 | 他 |
|---|------|-----------|-------------|-----------|------------|
| ア | | | | | |
| カ | 来る | ○ | | kinaharu | oidenaharu |
| サ | する | ○ | | shinaharu | |

○…違和感なく使用する。

△…違和感がある。もしくは日常生活では使用する機会がない。

×…使用しない。 空欄…失礼にあたるので、使用しない。

調査結果は表 3 - 1 ~ 表 3 - 4 の通りである。[-nahar-] (「ナハル」) の 1 形式のみ自分でも日常的に使用することがあるという結果であった。ほぼすべての動詞に対して [-nahar-] 形式を用い、同じく [-nasar-] の派生形と考えられる [-nar-] は使用しない。[-nahar-] は主語の二人称、三人称の別に関わらず多用されていることから、敬意度の高い形式であることがうかがえる。[-nasar-] に関しては、使用することはないが、[-nahar-] よりも敬意度の高い形式であると認識しているとの内省を得た。なお、[-nahar-] はときおり [-na:r-] (「ナール」)、もしくは [-narr-] (「ナッル」) と聞こえることがあった。話者自身は [-nahar-] と発音していると意識しており、[-nahar-] (「ナハル」) と同じく 3 モーラで発音されていることから、本稿では [-nar-] (「ナル」) ではなく [-nahar-] の音声的な変異形であるとして、[-nahar-]、[-na:r-]、[-narr-] を同形式とみなす。

ちなみに、渡辺 (2017) で指摘される [-as-/ras-] に関しては、表 1 内には挙げられていなかったが、筆者の内省がきくこと、話者からの回答が得られたことから現存するとした。[-as-/ras-] 形式は第三者待遇でのみ用いられる形式であるが、インフォーマント A からはなるべく使用しないようにしているとの回答がなされた。インフォーマント A は [-as-/ras-] を「粗いことば」であると言っており、[-as-/ras-] 形式は敬意度が低く、軽卑語的なニュアンスを持っていると考えられる。[-as-/ras-] 形式を使用する場面を尋ねたところ、はっきりとした回答は得られず、身内かつ目下の者である自分の子どもに対しても使用することはほとんどないという。回答から [-nahar-] 形式は連用形、[-as-/ras-] 形式は未然形に接続することが分かった。

終止形 + [-desu-] (「デス」) は聞いたことがあるが、自分ではほとんど使用しないとのことであった。「ゴザル」、「シャル」、「サツシャル」については、意味を理解することはできるが使用しないという回答があった。また、「行く」、「来る」、「居る」の尊敬語としておこなわれる「オイデル」は、標準語でいう

「いらっしゃる」にあたる表現であり、[-nahar-] とともによく用いられている。その他、「食べる」の尊敬表現「オアガル」が見られた。

以上、当該地域で使用される待遇表現についてまとめたものが (X) である。

(X) 熊本県熊本市南区御幸の高年層における待遇表現

- I. 待遇表現として現存する形式は [-nahar-] と終止形 + [-desu-]、[-as-/ras-] の3形式である。
 - II. [-nahar-] は話し相手待遇・第三者待遇両方に用いられる。[-nasar-] は使用されないが、[-nahar-] よりも丁寧な形式であると認識されている。
 - III. 第三者待遇にのみ用いられる [-as-/ras-] は軽卑語的なニュアンスが強く、高齢層においては使用が避けられる。
 - IV. 終止形 + [-desu-] は聞いたことがある程度だが [-nahar-] は多用する。
- 以下、現存しているこれらの形式について調査結果をもとに分析を行う。

4.2. 待遇表現の使われ方についての調査

4.2.1. 活用・統語調査

インフォーマントAに対して活用形ごとに例文を挙げ、それぞれの形式になおしてもらった。

○ [-nahar-]

表4-1 活用調査の結果

| 活用形 | | 用例 (標準語訳) |
|-----|-------|---|
| 未然 | ナハラ | 食べなはらんで、そのままおいでなはった。(召し上がらないないで、そのままいらっしゃった。) |
| 連用 | ナハリ | 畑ばしなはりよとですよ。(農業をなさっているんですよ。) |
| 終止 | ナハル | 整理をしなはる。(整理をなさってる。) |
| 連体 | ナハル | 言いなはるこつば、ちゃんと書きな <u>っ</u> せ。(おっしゃることを、ちゃんと書きなさい。) |
| 仮定 | ナハレ | 町長(を)しなはればよかつたのに。(町長をすればよかつたのに。) |
| 命令 | (ナッセ) | 食べな <u>っ</u> せ。(食べなさい。) |

ラ行五段型の活用をするが、命令形として予測される形式「ナハレ」は用いられず、命令(勸奨)・禁止表現のみ「ナス」の活用形「ナッセ」・「ナスナ」が幅広い世代で用いられる。これらの形式はやや軽い推奨、勧誘の意味となり、

目上の人に対して使用することはできない。話者からは、目上に対しての勸奨を表現する場合、「ナハリマッセ」を用いるという内省を得た。このことについて神部宏泰（1992, 255 - 256 ページ）では、「総じていえば、当地域で、「～ナス」のみおこなわれるのは、対者―聞き手に何らかの行動を要求し期待する、広い意味での命令表現に限られているのである。」と述べられている。また、「代者に直接かかわる命令表現形式のみが突出して残存し、他の諸活用形式が衰退方式をとるのは、他にも例が多い。」との記述がなされており、「ナス」の活用形「ナッセ」が「ナハル」の形式の隙間を埋める形で命令（勸奨）・禁止表現専用形式として用いられていることがうかがえる。

○ [-as-/ras-]

表 4 - 2 活用調査の結果

| 活用形 | | 用例（標準語訳） |
|-----|----|--|
| 未然 | サ | 休職は、さっ <u>さん</u> で、（休職は、しないで、） |
| 連用 | シ | そこば歩きよら <u>した</u> 。（そこを歩いていた。） |
| 終止 | ス | ご飯ば食べよら <u>す</u> 。（ご飯をたべている。） |
| 連体 | ス | 言わ <u>す</u> こつが、よ一分らんもん。（言うことが、よく分からない <u>んだ</u> よ。） |
| 假定 | セ | 丁寧 <u>に</u> させばよかとに。（丁寧 <u>に</u> すればいいのに。） |
| 命令 | なし | なし |

サ行五段型の活用をするが、主語が二人称では使用できないため、「ナハル」([-nahar-]) に対する「ナッセ」のように命令形の隙間を埋める形式もない。インフォーマント A によると、假定形はあまり使用せず、「～（さ）セば」という使い方には違和感があるという。假定形の場合、普通体（敬語なし）か「ナハル」を用いるという内省を得た。

4.2.2. 動作主体による使い分け調査

面と向かった対話での、二人称の主語に対して用いる待遇表現は、標準語の敬語形式か [-nahar-] のみである。また、職場などのフォーマルな場では標準語の敬語形式のみを基本的に使用する。今回の調査では、第三者待遇で使用する待遇表現 [-nahar-] と [-as-/ras-] について、動作主体による使い分けに注目する。

くつろいだ場面を想定し、親しいか疎遠か、目上か目下かの異なる 1 4 種類

の動作主体に対して、[-nahar-]、[-as-/ras-] がそれぞれ使用可能かを調査する。くつろいだ場面とは、目下かつ身内であり、年の近い兄弟との自宅での対話である。くつろいだ場面を想定したのは、職場などのフォーマルな状況では方言をあまり使用しないというインフォーマントAの内省があったからである。

動作主体は天皇（陛下）、学生時代の先生、面識がない大人・子ども、年上・年下の同僚、気の置けない友人、両親、配偶者、年上年下の兄弟、子ども、動物とその他広い範囲の人間を設定した。広い範囲の人間とは例えば「独身の人」のように不特定多数の人がその範疇に含まれる対象のことである。それぞれの形式が使用可能か確認し、可能であるなら例文を挙げてもらった。以下は動作主体として設定した聞き手および第三者の一覧と、調査結果である。

表5 設定した第三者

| | | 疎 | | | | | | 親 | | | | 疎 | | | |
|-----|------|----|----|---------|---------|-------------|----|----------|-------|-----|---------|---------|-----|------|----|
| | | 目上 | | 目上 | | 目下・同等 | | 目上 | 目下・同等 | | | その他 | | | |
| 話し手 | 動作主体 | 天皇 | 先生 | 同僚 (年上) | 他人 (大人) | 同僚 (同い年・年下) | 友人 | 他人 (子ども) | 両親 | 配偶者 | 兄弟 (年上) | 兄弟 (年下) | 子ども | 広い範囲 | 動物 |

表 6 使い分け調査 調査結果

| | 話し手 | 動作主体 | 疎 | | | | | | | 親 | | | | | 疎 | |
|-----|-----|------|----|----|--------|--------|------------|----|---------|----|-----|--------|--------|-----|------|----|
| | | | 目上 | | 目上 | | 目下・同等 | | | 目上 | | 目下・同等 | | | その他 | |
| | | | 天皇 | 先生 | 同僚(年上) | 他人(大人) | 同僚(同い年・年下) | 友人 | 他人(子ども) | 両親 | 配偶者 | 兄弟(年上) | 兄弟(年下) | 子ども | 広い範囲 | 動物 |
| 高年 | A | ナハル | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | × |
| | 女性 | アスラス | × | × | × | × | × | × | × | × | × | × | △ | × | × | × |
| | 80代 | 普通体 | × | × | × | △ | × | × | △ | × | × | ○ | ○ | ○ | × | ○ |
| | B | ナハル | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | × |
| | 女性 | アスラス | × | × | × | × | × | × | × | × | × | △ | △ | △ | × | × |
| 70代 | 普通体 | × | × | × | △ | × | △ | △ | × | × | ○ | ○ | ○ | × | ○ | |
| 中年 | C | ナハル | ○ | ○ | ○ | △ | × | △ | × | ○ | × | × | × | × | ○ | × |
| | 男性 | アスラス | × | × | × | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | × |
| | 60代 | 普通体 | × | × | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | D | ナハル | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | × | ○ | ○ | × | × | × | ○ | × |
| | 女性 | アスラス | × | × | × | ○ | × | △ | ○ | △ | × | ○ | ○ | ○ | × | × |
| 50代 | 普通体 | × | × | × | ○ | × | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| 若年 | E | ナハル | ○ | ○ | ○ | ○ | × | × | × | × | なし | × | × | × | × | × |
| | 女性 | アスラス | ○ | △ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | なし | ○ | ○ | ○ | ○ | × |
| | 20代 | 普通体 | × | △ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | なし | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | F | ナハル | ○ | ○ | ○ | ○ | × | × | × | × | なし | × | × | なし | × | × |
| | 女性 | アスラス | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | なし | ○ | ○ | なし | ○ | △ |
| 20代 | 普通体 | × | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | なし | ○ | ○ | なし | ○ | ○ | |
| | | | 天皇 | 先生 | 同僚(年上) | 他人(大人) | 同僚(同い年・年下) | 友人 | 他人(子ども) | 両親 | 配偶者 | 兄弟(年上) | 兄弟(年下) | 子ども | 広い範囲 | 動物 |

調査結果は上記のようになった。

A は調査対象の最年長者であり、[-nahar-] を、動物を除くすべての対象に使用している。目上の人はもちろんのこと同僚や友人、目下の者であるはずの年下の人間や自分の子どもにまで [-nahar-] が適用されている。また、広い範囲の人間に対しても使用される。例文中の網掛け部分は動作主体である。

例 (孫と会話中) ○ちゃん(自分の子ども)は、今、人吉で働いとんなはるけど、
(主語が親族・子ども)

(孫と会話中) 檀家ん人たちが、寄付しなはって、なおしなはったとよ。(主語が他人・大人)

[-as-/-ras-] に関してはほとんど使用せず、軽卑語としての意味が強い形式であると受け止められている。[-as-/-ras-] の使用が確認された状況は、気の置けない兄弟同士との会話中において、なおかつ動作主が兄弟などの非常に親しい間柄である場合、もしくは突発的な状況で動作主が明らかな敬意の対象ではない場合であった。

例 (兄弟と会話中) ○○(自分の兄)が庭で剪定ばしとらした。(主語が親族・兄)

(相撲を観戦中) あっ、(力士が)避けらした！(主語が他人・大人)

基本的にすべての動作主に対して [-nahar-] を使用し、普通体は目下の身内へのみ用いられる。

B は 11 歳差の A の姉妹である。A との回答の差異は小さく、A との違いは [-as-/-ras-] を両親と配偶者以外の身内に用いることができる点と、動作主体が友人の場合は普通体で使用されうる点のみである。B においても、[-as-/-ras-] の使用に対する強い抵抗感があった。例外的に [-as-/-ras-] を用いることができる状況も、話者 A と B で共通していた。また A と B は年齢が 10 歳以上離れているが、年下である B の方がやや [-as-/-ras-] を使用する頻度が高いと感じた。

例 (兄弟と会話中) ○○(自分の子ども)が遊びよらしたたい。(主語が親族・子ども)

Cは熊本県上益城郡嘉島町で幼少期を過ごした、この調査で唯一の男性である。高齢層であるAとBとの差が非常に大きい。まず、高齢層に比べると[-nahar-]の使用範囲が大きく減少している。[-nahar-]の適用範囲が明らかに目上の人間である天皇、先生、年上の同僚と両親に限定されている。一方で[-as-/ras-]の適用範囲は拡大している。天皇、先生、年上の同僚以外のすべての人間に用いることが可能である。目上であるはずの両親に対しても、くつろいだ談話中では使用される。普通体は天皇、先生以外のすべての対象に使用する。

例（妻と会話中）（自分の父親）は人がえーけん、よー失敗しよらしたなあ。
（主語が親族・両親）

DはAの娘であり、幼少期を熊本県熊本市南区御幸で過ごしていた。DはCとあまり年が離れていないにもかかわらず、差異が大きい。Cと比較すると[-nahar-]の使用範囲が広がっている。また[-as-/ras-]と普通体の使用範囲が狭くなっている。つまりCよりも丁寧な言葉遣いをしている。[-nahar-]を使用しない対象は年下の他人と自分の子どものみで同僚と友人には[-nahar-]を使用する。

EはDの娘であり、[-nahar-]の適用範囲が目上の人間かつ親族以外の人間に限定されている。加えて[-nahar-]を使わずに普通体か[-as-/ras-]を使用している。[-as-/ras-]の使用範囲が非常に広くなり、全ての人間に対して使用可能であることが分かる。普通語も明らかに目上の人以外には使用する。

Fの回答はほとんどEと同じだが、調査対象者の中で唯一動物に対しても[-as-/ras-]を使うことができる。使用する際には親愛表現もしくは冗談として用いるとの内省を得た。

例（兄弟と会話中）「猫が（魚を）食べよらす。」（主語が目下・動物）

4.3. 分析

第三者待遇において、高年層・中年層・若年層の各世代で、明らかにそれぞれの形式の使用頻度が異なる。高年層においては[-nahar-]が敬意度の高い、丁寧な形式として多用されている。動作主体の年齢をはじめとした属性に関係

なく広くおこなわれ、[-as-/ras-] は基本的に使用しない。中年層では [-nahar-] が目上の人に対してのみ用いられ、目下の人間に [-as-/ras-] が使用されている。このことから中年層においては、[-nahar-] は方言の尊敬語として、[-as-/ras-] は目下の者に対して使用する専用の形式として、それぞれの形式が明確な意味領域をもっていることが確認できた。一方で若年層は[-as-/ras-]を多用し、[-nahar-]を疎遠であり明らかに目上の人に対してのみ使用する。また、そもそもくつろいだ場面においては動作主体を待遇せず、普通体で済ませることが多い。

[-nahar-]を広い範囲で使用する傾向は高年層A、Bにおいて見受けられ、世代が下るにつれて目上の人にもみ使われるようになる。また、20代にいたっては[-nahar-]をほとんど使用せずに[-as-/ras-]を多用している。若年層では軽卑語的なニュアンスが薄れ、目上の人にも用いることができるようになっていく。世代を経るにつれて第三者待遇の丁寧語に近い用いられ方になりつつある[-as-/ras-]だが、話者Fにおいては動物にまで用いることができる。これはふざけて、もしくは親しみを込めて使用することである。

渡辺(2017)では大津町方言における待遇表現について報告がなされた。それによると、元々尊敬表現として[-nahar-]、[-as-/ras-]が存在し、また丁寧表現として[desu]が用いられていた。それが、中年層以降の世代では[desu]が衰退したことで、丁寧表現の意味領域に[-as-/ras-]が侵入し、「第三者場面の丁寧形」として目上の人に対しても使用されるようになったとの考察がなされている。渡辺(2017)と本調査の結果とを比較すると、高年層においてすでに待遇表現の運用方法が違うことが分かる。すなわち、大津町の高年層において丁寧表現として使用されていた[desu]は、当該地域ではすでに衰退しており、[-nahar-]が目上、目下に関わらず使用される丁寧表現として第三者待遇で用いられていた。フォーマルな場面では標準語の敬語形式が使用されることから、適度な敬意を表現する[-nahar-]と、標準語の敬語形式との違いが高年層ですでに意識されていたと推測できる。また、京都方言「ハル」も話し相手待遇では尊敬語として機能し、第三者待遇では丁寧表現として幅広い動作主体に対して使用されている。この点において京都方言「ハル」と当該地域の高年層の使用する[-nahar-]は類似した運用がなされていると言える。

一方で大津町の中年層以降では、[-as-/ras-]が丁寧表現として、目上、目下に関わらず使用されている。そして、当該地域においては、若年層以降の世代から目上の人に対して[-as-/ras-]が使用可能になっており、大津町におけ

る中年層が当該地域の若年層と同じような使い方をしていると考えられる。つまり、大津町では、世代間の変化が当該地域よりも早く発生している。さらに、世代を下るにつれて地域差がなくなっていると分析できる。

図1 世代間の待遇表現の変遷 渡辺（2017）と本調査の比較

菊池郡大津町周辺 渡辺（2017）※誤植と思われる個所は修正した

| | | | | |
|----------|-----------------------------------|---|--------------|------------|
| 高年層以前 | 尊敬表現 | | 丁寧表現 | |
| | [-nahar-]、[-nar-] [-as-/-ras-] | | [-desu-] | |
| 中年層以降～現在 | 尊敬表現 | | 丁寧表現 | 衰退 |
| | [-nahar-]、[-nar-] [-as-/-ras-] | → | [-as-/-ras-] | → [-desu-] |

上益城郡嘉島町周辺（本稿の調査地域）

| | | | | |
|-----|-------------------------|---|---------------------------------|----------|
| 高年層 | 尊敬表現 | | 丁寧表現 | 衰退 |
| | | | [-nahar-] [-as-/-ras-] | [-desu-] |
| 中年層 | 尊敬表現 | ← | 丁寧表現 | |
| | [-nahar-] | | [-nahar-] [-as-/-ras-]（目下専用） | |
| 若年層 | 尊敬表現 | | 丁寧表現 | |
| | [-nahar-] （あまり使用しない） | | [-as-/-ras-] | |

5. まとめと今後の課題

熊本県上益城郡嘉島町周辺地域の方言で日常的に使用される待遇表現の形式は[-nahar-]、[-as-/-ras-]の2形式であった。[-nahar-]はほぼ全ての動詞に下接し、二人称、三人称ともに待遇する。全ての世代に使用され、若年層と中年層の一

部では目上の者に対してのみ用いられる尊敬語形式となっている。高年層の使用する [-nahar-] が待遇する動作主体の範囲は、目上の人間はもちろんのこと、自分の子どもなど明らかに目下の者にまで及ぶ。この点において、高年層世代の方言敬語体系には尊敬語という枠組みがないと考えることができる。また、中年層以降の世代では [-nahar-] が目上専用の待遇表現形式として使用されていることから、その敬意度は世代を下っても弱まることはなく、むしろ方言における尊敬語として意識されつつあると考えられる。

当該地域で用いられる [-as-/ras-] は、第三者場面でのみ用いられる、敬意の低い待遇表現である。軽卑語的な意味をもち、高年層の話者による使用は特に避けられる。一方中年層では、主に身内の、明らかに目下の人に対してのみ使用することが可能になり、若年層では広くおこなわれるようになる。若年層においては動物にまで用いることが可能になっていることから、敬意を表す敬語法というよりも親愛の情を表す表現としての利用がなされているように思われる。

第三者待遇の丁寧語・尊敬語として [-nahar-] が使用されていたところに、中年層から [-nahar-] が丁寧要素のない尊敬語として運用されるようになり、第三者待遇の尊敬語としての [-nahar-] がはっきり認識されるようになった。そして若年層からは [-nahar-] に変わって [-as-/ras-] 形式が使用されるようになり、並行して敬意も減衰した。結果、第三者待遇の尊敬語としては標準語の尊敬語が主に使われるようになった。

以上が今回の調査・分析で明らかとなった熊本県中部、上益城郡嘉島町とその周辺地域における待遇表現の使用実態である。今後の課題としては、動作主体による使い分けだけでなく、話し相手や場面別による使い分けに関する追加調査が求められる。さらに、標準語の敬語と方言敬語の使い分けに関する厳密な調査を行う必要があると考えられる。

卒論要旨発表会にて、本調査においては調査対象者の人数が少数であること、調査結果について誘導している可能性があることなどの問題点を指摘して頂いた。また、日常的に使用される方言体系についての研究は、単なる調査に終わらず、特に若い世代が伝統的方言の使い方を理解することで役場や医療現場などにおける年長者とのコミュニケーションツールとして利用できる可能性につながるというご意見を頂いた。

使用文献

- 神部宏泰（1992）『九州方言の表現論的研究』和泉書院
- 岸江信介（1998）「京阪方言における親愛表現構造の枠組み」『日本語科学』第3号 23-46
- 辻加代子（2001）「京都市方言・女性話者の「ハル敬語」——自然談話資料を用いた事例研究」『日本語科学』第10巻 56-79
- 辻加代子（2002）「京都市方言・女性話者の談話における「ハル敬語」の通時的考察—第三者待遇表現に注目して」『社会言語科学』第5巻第1号 28-41
- 藤原与一（1978）『方言敬語法の研究 昭和日本語方言の総合研究 第一巻』春陽堂
- 藤原与一（1979）『方言敬語法の研究 昭和日本語方言の総合研究 第二巻』春陽堂
- 渡辺千尋（2017）「熊本県菊池郡大津町方言における待遇表現」『国文研究』第62号 熊本県立大学日本語日本文学科文学会

引用 URL

「嘉島町ホームページ」(<http://www.town.kashima.kumamoto.jp/>)

最終アクセス日 2018年1月5日

謝辞

本論文を執筆するにあたり、面談に応じ、協力して下さった方々に心より感謝申し上げます。また、小川晋史先生には、校正・指導にあたって下さったことを、深謝いたします。大島先生、崔先生からは卒論要旨発表会で有意義なコメントを頂きました。貴重なご意見をありがとうございました。

